



「スプリント」



New!

新品種のご紹介

カネコ種苗(株)
くにさだ育種農場
桑原 巨平

はじめに

農作物全般の生産量が減少するなか、ズッキーニは栽培面積が年々増え続けている魅力的な野菜です。揚げ物や炒め物、漬物などさまざまな料理に使える勝手の良さから、ここ数年で急速に普及が進み、今や身近な夏野菜の一つとなりました。

なかでも、長野県はその冷涼な気候がズッキーニの生産に適することから栽培面積が大きく伸び、全国1位の生産量を持つ夏の大産地となっています。また、秋から春にかけては加温ハウス栽培を中心とする宮崎県で多く生産され全国2位。3位は群馬県であり、平坦地から高冷地にかけて広く栽培されています。

一方、作付けが増えるに従い病害等さまざまな問題も見られるようになりました。

なかでも

- ①ウイルス病
- ・ズッキーニ黄斑モザイクウイルス (ZYMV)
- ・スイカモザイクウイルス (WMV)
- ・キュウリモザイクウイルス (CMV)

- ②高温多湿条件下で多発する軟腐病
- ③強風による茎折れ
- ④雌花着生が良く収量性は抜群ですが、その分草勢の低下も起こりやすいため、早めの追肥を心がけてください。

- ⑤短期栽培に向くため収穫期間は40日程度とし、株を更新することをおすすめします。

つ、ひょうなど、異常気象による被害も増えており、年々栽培が難しくなっています。

そこで、それら諸問題の解決の一助となるべく、「スプリント」を育成しましたので、ご紹介いたします。

3大特性

①現行品種の中でトップクラスのウイルス (ZYMV, WMV, CMV) 抵抗性

当社既存品種が持っていないかったCMV抵抗性を有しており、より安心して栽培いただけるようになりました。

②風害による茎折れに強く、軟腐病等の細菌病が侵入しにくい柔軟な草姿

軟腐病は傷口から感染することが多い病気です。茎がしなやかで傷やヒビが入りにくくにより、軟腐病の発生を抑えることができます。

③不安定な気候条件下でも収量を上げやすい高い早生性

当社既存品種と比較して播種から雌花の開花までの期間が3日程度短く、その分早く収穫開始できま

栽培ポイント

①露地栽培、抑制栽培が最適です。中間地・暖地では4~5月と8月、冷涼地では5~7月の播種をおすすめします。

②若苗で定植することが大切です。中間地・暖地では5月以降、冷涼地では6月以降に直播も十分可能です。雌花の開花開始時期から花粉が安定して発生する抑制作型で、特に

作型表

